

風の森

1. 昨年度の振り返り

「利用者さんの権利擁護と虐待防止に取り組む」ということで、具体的には利用者さんに寄り添った支援を心がけることによって、不適切な支援がないことを目指しました。そのために、スタッフとして研修（外部・内部）を積極的に行い、共通理解のもとでの統一支援の浸透に努めることとし、ケース検討の充実を目指しました。

成果としてはどうだったでしょうか？一人一人のスタッフさんが振り返っていただきたいと思います。

2. 個別支援計画は、利用者さんにご家族の気持ちに寄り添って！

個別支援計画の作成にあたって大切なことは、スタッフの気持ちや思いが先行し過ぎないことではないでしょうか？利用者さんの今の在り様の背景にあるものを可能な限り理解する努力が十分なされていますか？計画は課題（問題）ばかりをあげているものになっていませんか？良い面をさらに伸びてもらおうという視点をぜひ大切にしていきたいと思います。計画に抽象的な表現や、かつ実現が当面は難しいと判断されることが入っていませんか？実現が可能なことを具体的に記載して説明し、同意を得るようにします。

利用者さんにご家族の気持ちから離れた個別支援計画とならないようにします。

3. ケースワークの充実

ケース検討は個別支援計画の進捗状況を確認するという側面と、日々の状況の共通理解を得るという目的があります。順番に取り組みすべての利用者さんのケース検討が必要です。また、個々のケースについて積極的に発言していただくことが必要です。時に意見のぶつかり合いが起きても、それは利用者さんへのより良い支援の実現という視点さえ見失わなければ大いにあるとよいことだと思います。

4. 利用者さんができないことを支援する。

利用者さんができることは静かに見守り、できないことを支援することが我々の立ち位置であると思います。そのためには何ができて何ができないのかの見極めがしっかりできていることです。そして、大切なことは利用者さんができない支援をする場合、そのことを利用者ご本人が望んでいるかです。望んでいないのに無理に実行すると時に良い結果が得られない場合があると思います。ここでも気持ちに寄り添うということが求められます。

5. 地域交流をすすめる

「風の森まつり」や地域での散策活動等の他に、どうすれば地域の方々との交流がすすむのか考えていきたいと思います。

（文責：大場保治）